



【天竜峡 冬の龍角峯】

目次

●年頭所感	2
●話題の広場 大規模災害に備えて — DMAT実動訓練 — 勤労者まつりに参加しました	3 3
●ねっとわーく 羽生内科診療所 橋上医院	4 5
●院内保育所が新しくなりました	4~5
●心臓血管センターを開設しました	6
●ノロウイルス感染症と対処法	7
●情報カプセル 「お薬手帳」は大切な情報源です！	8
●職場紹介 飯田市立高松診療所	8
●新任医師の紹介	8

飯田市立病院 基本理念

私たちは、地域の皆さんの健康を支え信頼される医療を実践します

飯田市立病院 基本方針

- ①私たちは、安全・安心で良質な医療を提供します
- ②私たちは、患者さんの権利と意思を尊重し、患者さんの立場に立った医療を実践します
- ③私たちは、地域の保健、医療、福祉機関と密接に連携します
- ④私たちは、教育・研修機能を高め、医療水準の向上と、職員が誇りややりがいの持てる職場づくりを行います
- ⑤私たちは、公共性と経済性を考慮し、健全な経営に努めます

飯田市立病院 理念行動指針

私たちは、誠意 熱意 創意をもって医療を実践します

年頭所感



飯田市立病院 院長
金子源吾

新たな年を迎えるにあたり謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

振り返ってみますと昨年も国内外で多くの出来事がありました。その中で、一番明るいニュースは、大隅良典東京工業大学名誉教授がノーベル医学・生理学賞を受賞したことではないでしょうか。オートファジーと呼ばれる、細胞内タンパク質のリサイクルの解明によるものだそうで、3年連続して日本人がノーベル賞を受賞したことになり、日本人として誇りに感じています。

さて、昨今、医療をとりまく環境は大きく変化しています。急速に少子高齢化が進み団塊の世代が後期高齢者となる2025年に向け、医療・介護総合確保推進法が制定され、高齢化により増大する医療費を抑制し、持続可能なものにするための方策として、地域医療構想の策定と地域包括ケアシステムの構築が進められています。当院も、その変化の中にあって、必要な対応をしていかなければならないと考えています。

地域医療構想の中で当院に期待される役割は、高度急性期および急性期医療であり、具体的には救急医療、周産期医療、がん診療をはじめとそれぞれ診療科で、より専門的で質の高い医療を提供することであるとと考えています。また、地域包括ケアシステムの構築に向けて医療と介護の連携強化など、高齢化する患者さんへの支援態勢の充実を図る必要があります。

救急医療については、救命救急センターの運用により充実を図ってきましたが、まだまだ救急医をはじめスタッフ不足が課題です。昨年1月15日に軽井沢町の国道でスキーツアーバスが転落し、将来ある若者13人と乗員2人が死亡、26人が重軽傷を負うという大変痛ましい大事故となりました。もし、当地域で同じことが起きたらどうしたらよいか、救急の観点からも考えておかなければならない出来事です。

周産期医療については、昨年7月に当地域で分娩を受け入れていた診療所が急遽休診となり、当院が地域内の分娩を全て受け入れることになりました。当院のスタッフの頑張りや地域内の産婦人科医との連携により、なんとか断ることなく受入れができています状態ですが、決して安定的なものではなく、地域全体で分娩体制確保に向けて対応が必要と考えています。

平成19年に地域がん診療連携拠点病院に指定され今年で10年になります。手術、放射線治療、化学療法、緩和ケアなどそれぞれの分野で、がん診療のレベルが向上していると実感しています。今年のがん診療連携拠点病院整備検討委員会の現地調査が予定されています。外部の評価を受けて、今後とも診療体制の充実を目指す考えです。なお、最新式のリニアック（放射線治療）装置への更新準備を進めておりますが、増築工事と装置の設置・調整を経て、来年早々には新しい装置での治療を開始する予定です。

当院には災害指定病院としての役割もあり、DMAT（災害派遣医療チーム）の訓練を受けた職員もおります。昨年4月の熊本地震の際も、当院のDMAT隊員が熊本へ行き、医療支援活動に参加にしました。その後、鳥取中部地震など各地で地震が起きています。地震に対しては、昨年10月に飯伊地域で大規模な地震が起きたことを想定して中部ブロックDMAT実動訓練が行われましたし、毎年実施している地震総合訓練もふまえ、日頃から充分備えることが大切だと思います。

このほかにも、医療安全の向上、医療スタッフ不足の解消、臨床研修医の確保、新専門医制度への適切な対応など、課題となる案件は多岐にわたっていますが、病院の基本理念である「地域の皆さんの健康を支え信頼される医療を实践する」ため、一つ一つ解決していきたいと考えています。本年もご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

大規模災害に備えて — DMAT実動訓練 —

10/15

中部ブロックDMAT実動訓練が、10月15日土曜日に行われました。

当院は災害拠点病院に指定されているため、地域での大規模災害発生時に備え、各地で行われる訓練にDMATを派遣し参加してきました。今回は、伊那谷断層帯の活動によりM8.0の地震が発生し、飯田市、駒ヶ根市、伊那市で震度7という想定のため、各県からのDMATを受け入れる立場となりました。

飯田下伊那にはドクターカーを装備した各チーム5人、25チームのDMATが訪れ、内15チームを当院が受け入れました。

「職員参集が困難な中、次々と搬送されて来る患者をDMATの支援を受けながら処置する」という課題に取り組むため、当院からは医師はじめ、患者役を含めて100人を超える職員が参加しました。関係諸機関、救急隊、医療資機材業者等も参加、ヘリコプターも飛来し、南棟周辺は本番さながらの緊迫した状況となりましたが、滅多に巡って来ない大規模訓練の機会を得て、良い経験を積むことができました。



訓練の様子

勤労者まつりに参加しました

11/23

11月23日に飯田勤労者福祉センターにおいて「第19回勤労者まつり」で、当院含め飯伊地域の8医療機関で構成する飯伊糖尿病連絡会は、飯田下伊那臨床検査技師会の協力を得て糖尿病予防啓発を行いました。

今年は、『1日に必要な野菜の量をはかってみよう』というコーナーで、緑黄色野菜、淡色野菜をそれぞれ実際に容器に取って量ってみました。1日に必要な野菜量が、目で見て感覚としてわかります。その隣では、管理栄養士による栄養相談もありました。

また、飯田下伊那臨床検査技師会による『体験してみよう！採血と尿糖検査』では、人形を使って採血を体験したり、尿糖を検査したりできるコーナーを設けました。採血される側ではなく、採血する貴重な体験は初めての方が多く、来場者の方にも興味を持ってもらえました。尿糖検査は実験のようで、子どもさんに楽しみながら体験してもらえました。また、来場された方には、自宅で簡単に尿糖測定ができる試験紙の配布もありました。例年になく盛況で、多くの来場者の方に好評でした。



緊張するなあ。採血体験



尿糖検査



このぐらいかな？1日に必要な野菜の量

飯伊糖尿病連絡会

- 飯田病院
- 輝山会記念病院
- 下伊那厚生病院
- 健和会病院
- 県立阿南病院
- 下伊那赤十字病院
- まるやまファミリークリニック
- 飯田市立病院



羽生内科診療所

(飯田市鼎一色)



温もりに満ちた丁寧な医療を心掛けています

羽生内科診療所 院長 羽生 郁久

中年女性の患者さんの診察を終わり、薬の処方をしている時の事です。患者さんが「私、聴診器を初めて当ててもらいました」と言われたのです。私は何と答えてよいのかわからず患者さんの顔を見ると、更に「病院では、先生はコンピューターの画面ばかり見ている、私の顔を見ることもなく、薬を出しておきますからと仰って、診察はそれでお終いでした」と不満げに訴えるのです。

私は若い頃に、先輩の先生方から教えられた診察の手順に従って診察をしているだけなのですが、患者さんが満足してくれた

様子でしたので安心しました。私が教えを受けた診察時の注意は①何回も診ている患者さんでも、初めて診察する気持ちで診察する事。②患者さんの眼を見て話をすること。③患者さんが話しやすいように「お変わりないですか」と聞く事などです。

私は診察の時、習慣となっている手順に従って、毎回患者さんの胸に聴診器を当て、お腹を押して診るようにしていますが、時間のかかる無駄な事をしているのかもしれませんが、でも無駄と思われる事の中にこそ、手

の温もりを感じて下さる患者さんがいるかもしれないと思うようにしています。診察も人と人との出会いの場です。色々な患者さんとの出会いを楽しみながら仕事をしています。



羽生先生(前列中央左)とスタッフの皆様

所在地 〒395-0805 飯田市鼎一色45-2

☎0265-24-1250

診療科目 循環器科、内科、小児科

診療時間 8:30~12:30 / 14:30~17:30

休診日 水曜日午後 土曜日午後 日曜日・祝日

往診 可

駐車場 あり



院内保育所が新しくなりました



新しい院内保育所の建物が完成し、12月3日に竣工式を行いました。

地域の医療を維持するには、医師、看護師等、医療職員を十分に確保する必要があります。そのため、当院では以前から院内保育所を設置し、出産・育児の休職期間を終えた職員が育児期間中でも安心して働ける環境を整えています。

しかしながら、医師住宅だった建物を改装して使用して

登録医紹介

登録医とは共同診療、検査機器の利用、研修参加などを一緒に行って、より良質な医療を地域の皆様に提供するため、協力いただいている医療機関です。

橋上医院

(阿智村)



橋上医院 院長 疋田 仁志

職員24人総活躍

阿智村駒場にある有床診療所です。

前院長(橋上好郎先生)が昭和31年に開業され、平成17年に現在の場所に新築移転されました。平成18年より筆者が院長として赴任しています。

筆者は信州大学を卒業後、信州大学第2外科に入局、昭和62年から飯田市立病院に外科医として20年間勤務していました。現在は村内の診療所として、専門にとらわれず多方面の疾患に対応できるように努力しています。

職員は医師1名のほか看護師9名、介護士8名、理学療法士1名、介護支援専門員1名、事務職員4名の総勢24名で日夜奮闘しています。

当院は外来診療(予約受付可)のほか、入院診療(19床)や訪問診療もおこない、行政や訪問看護ステーションなどと連携し、在宅介護の一翼を担っています。

忙しい毎日ですが、全職員が明るい職場を目指してがんばっています。



疋田先生(前列中央)とスタッフの皆様



- 所在地** 〒395-0303 阿智村駒場359-1
☎0265-43-2118
- 診療科目** 内科、外科、リハビリテーション科
- 診療時間** 9:00~12:30 / 15:30~18:00
- 休診日** 木曜日午前 土曜日午後 日曜日・祝日
(ただし、第1、3、5土曜日は休診)
- 往診** 可 **駐車場** あり



おり、収容可能人数も不足し、建物の構造から保育を行うには不便でした。このため今回新たに保育専用の建物を建設しました。

構造は木造平屋建、質素ながらも随所に子どもが喜ぶような工夫が凝らされています。また広々として入所定員も25人から30人に増えました。引き続き園庭の整備も進めます。

出産を機に一旦退職されたものの、今後少しでも早く医療現場に復帰したいとお考えの方は、利用をご検討ください。



外観



保育の様子

心臓血管センターを開設しました

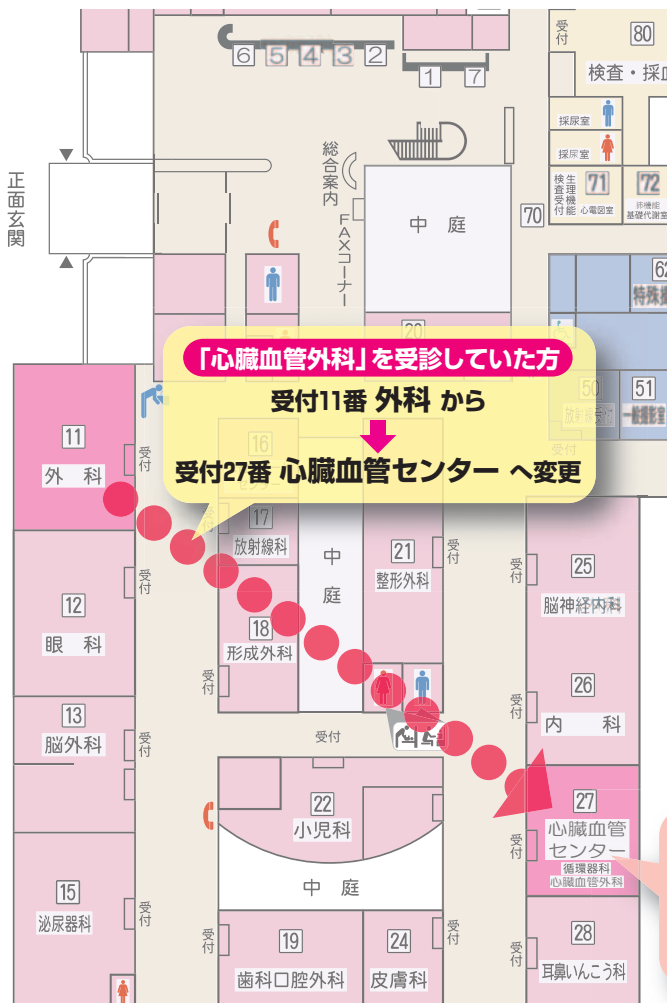
当院では、循環器内科及び心臓血管外科が連携協力し診療を行っていましたが、この度この体制を維持しながら一層の院内連携の充実を図ることで、患者さんへの質の高い医療を提供することを目的に、平成28年12月1日から「心臓血管センター」を開設する運びとなりました。

循環器内科と心臓血管外科どちらか一方だけでは治療が成り立たないのが循環器疾患の特徴です。疾患に対して両科が一つのチームとして難治性の病気、重症の病気の治療に取り組んでまいります。また、今後は地域の医療機関との情報共有を図る中で、役割分担に基づいた「地域全体によるチーム医療」を推進してまいります。センターとして期待される役割をしっかりと果たすべく、取り組んでまいりますので、引き続きご理解ご協力をお願い申し上げます。

受付・診察の流れ

心臓血管センター開設に伴い、患者さんの受付・診察場所が次のように変更となります。

- 「心臓血管センター」は、従来の循環器内科の場所で診察を行います。
- 「循環器内科」(受付「27番」)は、「心臓血管センター」に名称が変更します。
- 「心臓血管外科」を受診していた方は、**受付「11番 外科」から、受付「27番 心臓血管センター」へ変更**となります。受付27番へお越しください。
- 「循環器内科」を受診していた方は、**従来どおり受付「27番 心臓血管センター」(旧循環器内科)へお越し**ください。



紹介の流れ

外来開設日

月曜日～金曜日(祝祭日を除く)

外来診察室

1階受付27番 心臓血管センター内

患者紹介方法

地域医療連携係へ紹介状FAXによる事前予約をお願いします。

ご紹介の診療科名は、「心臓血管センター」としてください。

完全予約制とさせていただきます。

- 心臓血管外科は、
受付27番「心臓血管センター」内
14診察室にて診察を行います。

ノロウイルス感染症と対処法

今シーズンはノロウイルスによる感染性胃腸炎が、2012年の大流行を上回り流行しています。そこでノロウイルスによる感染症予防や対処法について解説します。

ノロウイルス感染症とは

ノロウイルスは毎年11月～2月に流行し、感染すると12～48時間の潜伏期間をへて、突発性のおう吐や下痢、腹痛などの急性胃腸炎をおこします。

ノロウイルスの増殖は人の腸管内のみですが、自然環境下でも長期間生存が可能です。感染力が非常に強く、少量のウイルス（10～100個）でも感染・発症します。

ノロウイルスの感染は、ウイルスに汚染された牡蠣などの二枚貝を食べることからの感染、感染した人の便や吐物の処理や環境の不十分な消毒により手指を介しての感染があります。また、感染した人が調理することでの食品や食器、調理器具を通じた感染もあります。

感染しないための予防法

ノロウイルスは手を介して汚染を広げ、他の人へ感染を広げるため、手洗い（トイレの後、食事の前や調理の前に）や、おう吐があった場合の速やかな処理や環境消毒を行い、二次汚染させないことが重要です。

環境消毒と適切な処理方法

おう吐物や下痢便にはノロウイルスが大量に含まれている可能性があります。感染の拡大を防ぐために以下のポイントに注意して汚物の処理や環境消毒を行います。

1. 使い捨ての手袋、ビニールエプロン、マスクなどの防護具を着用して、手指や着衣にウイルスがつかないようにする。
2. 十分に換気をおこない、ウイルスを滞留させないようにする。
3. 塩素系漂白剤（環境消毒は0.1%、衣類は0.02%濃度）などの効果的な消毒剤を使用する。
4. 嘔吐物の処理時には広範囲（おう吐物から半径2 m程度）の壁や床を消毒する。
5. 処理が終わり防護具を脱いだ後には石けんによる手洗いをしっかり（30秒かけて）行う。

また、日ごろから“手”が触れるトイレの便座・蓋、ドアノブ、蛇口、電気のスイッチなどはこまめの洗浄・除菌を行いましょう。

すばやく適切に
処理する！

乾燥させない！

消毒する！





近くの「かかりつけ医」を持ちましょう。市立病院へ初診で来院される場合、かかりつけ医からの紹介による事前予約があると待ち時間が短縮されます。

情報カプセル



「お薬手帳」は大切な情報源です！

薬局で作ってもらえる「お薬手帳」みなさんお持ちでしょうか？
飲んでいる薬を知ることが、治療を行う上でとても大切な事なのです。「お薬手帳」をどのように使っているのかご紹介させていただきます。

診察や入院した場合、「お薬手帳」を使って、①今飲んでいる薬、②過去に飲んでいた薬、③副作用やアレルギー体質、④薬を飲んでい
た期間、などを確認させていただきます。治療を進める上で、薬の重複、悪い組み合わせ、副作用など避ける為に使用します。薬の種類によっては、手術や治療するのに、「中止」が必要な場合もあります。

万が一、救急車で来院されるような場合、「お薬手帳」から、どのような病気なのか、ある程度推測が出来ます。一刻を争うような病気の時にこそ「とても大切な情報」になります。

医療機関にかかる時は、「お薬手帳」も忘れずにお持ち下さい。また、万が一に備えて、ご家族の方の「お薬手帳」の有無や置き場所も確認しておくとう安心です。



お知らせ

一般の方への面会制限のお願い

インフルエンザや感染性胃腸炎の流行するため、例年通り一般の方の面会を下記日程の期間制限いたします。

面会制限期間（平成29年1月4日～3月31日）

面会につきましては、付き添いの方またはご家族の方に限ります。

面会時は引き続き「マスクの着用」と「手指衛生」を必ず行って下さい。

なお、地域の感染症流行状況により、面会制限期間を変更する場合があります。病院内の感染防止のため、ご理解とご協力をお願いいたします。

感染防止対策地域連携医療機関 飯田市立病院医療安全部・感染管理室



シリーズ ● 職場紹介 ● その51

【飯田市立高松診療所の紹介】

飯田市立高松診療所は高松分院閉院に合わせて、地域住民の要望、期待に応えるべく設置されました。内科診療とリハビリテーション医療を医師を中心に看護師2名、理学療法士2名、リハビリ助手1名、事務1名の7名で行っております。高松分院時代からの患者さんも多く、また往診も行っており、少しでも地域の皆さんの在宅医療に貢献できればと考えております。近くには児童の遊具や大人が取り組む健康器具が設置された「ゆうゆう公園」があり、子供達の可愛らしい声が聞かれ、和やかな雰囲気に包まれています。今後も併設している「介護老人保健施設ゆうゆう」もあわせて、地域住民に愛される診療所となるように努めてまいります。



新任医師の紹介



麻酔科
峰村 仁志
(みねむら ひとし)
平成19年3月卒業
平成28年11月1日着任
前勤務病院
信大医学部麻酔科

あ と が き

ランニングで出勤する、いわゆる通勤ランするスタッフをよく見かけます。それぞれの目的は違うにしろ、意識の高さに感心します。先日受けた健診で『習慣的に運動しているか』の問いに、近いうちに…と思いながら数年が経過している自分が情けなくなります。

さて今年は体を動かし、健康でよい年にしたいものです。

編集委員 熊谷智子